

# 東北ハイテク研究会

ニュースレター (No.30 2018.12)

(東北食農ネットワーク T-FAN)



東北食農ネットワーク” T-FAN” 第30号をお届けします。

第30号では、2018年11月26日(月)に東北農政局主催で開催されました「スマート農業加速化実証プロジェクトに関する勉強会」(於：仙台市 JAビル宮城)に協力し、東北ハイテク研の門間事務局長が「スマート農業加速化実証プロジェクトの採択を目指してー申請書の書き方を中心にー」と題して講演を行いましたので報告します。

## 勉強会開催の目的

農林水産省は、スマート農業について次のように説明しています。「スマート農業とは、ロボット・AI・IoT等の先端技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を実現する新たな農業のことです。日本の農業の現場では、課題の一つとして、担い手の高齢化が急速に進み、労働力不足が深刻となっています。そこで、スマート農業を活用することにより、農作業における省力・軽労化を更に進められる事が出来るとともに、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待される効果となります。」

オランダ、アメリカのようなスマート農業先進国に比較して小規模農家によって高品質生産を目指した多様な農業が展開されているわが国では、スマート農業の展開が遅れています。そのため、スマート農業の取り組みを一気に加速化するため、農林水産省では「ロボット・AI・IoT等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を図るため、先端技術を生産から出荷まで体系的に組み立て、一貫した形で実証研究を行い、データの分析・解析を通じ、最適な技術体系を確立する取組を平成31年度と32年度の2か年をかけて50億円の予算を確保して実施する予定としています。

しかし、これまでの競争的研究資金制度とは異なる農場単位での新たな実証プロジェクトの実践は全く新たな試みであり、現場担当者に混乱が認められました。そのため、東北農政局は、本省の事業担当者を招いて事業目的、スキーム等を再周知するとともに、さらには競争的研究資金獲得を支援している東北ハイテク研による応募に係る留意点等についての勉強会を開催しました。

## 勉強会の内容

勉強会の内容は、以下のとおりです。

① 開会 13:30~13:35 (5分)

東北農政局からのあいさつ、開催趣旨の説明。

② 事業説明 13:35~14:50 (75分)

本省担当者による「スマート農業加速化実証プロジェクトQ&A」を中心とした本プロジェクトに係る追加説明

説明者：農林水産技術会議事務局研究推進課

御子柴（みこしば）課長補佐

（スマート農業加速化実証プロジェクト推進チーム）

③ 講義 15:00~16:15 (75分)

東北ハイテク研・門間講師によるスマート農業加速化実証プロジェクトへの応募に係る留意点と対応方向についての解説

④ 出席者との質疑応答等

⑤ 個別相談 16:15~16:30 (15分)

## 応募に係る留意点に関する講義内容

### 講演の内容

1. 土地利用型農業の未来像からスマート農業の重要性を考える
2. スマート農業を理解する
3. スマート農業加速化実証プロジェクトへの応募
4. 参考情報 – 他の競争的資金での不採択理由
5. 本年度の審査から見た採択に向けての対応の基本方向
6. 東北ハイテク研による支援

（講演資料を東北ハイテク研 HP（会員専用ページ）に掲載しております。）